

事業所における自己評価結果

事業所名		どすこい昭和町部屋				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	6	・2階やテラスを活動場所にしてている。・2階のバルコニーも支援のスペースとして活用できるよう工夫している。現時点では、スペースは適切。・日にちによる。・1階と2階で活動内容を分けてさせている。	・平日は、約18坪×2Fでスタッフ8人、利用者12人前後で使っていますが、体を動かしたいりようしゃのための場所がないため、土日祝は、奈良の王寺町の陽楽の森で活動します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	4	・職員の人数が多い時もあれば、少ない時もある。送迎時、職員5名は配置してほしい。・週末の課外活動では、多めに配慮する等工夫している。	・強度行動障害児童の利用が多いが、スタッフの配置は低めで平日、外遊びはできない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	5	・100%バリアフリーではないがトイレや浴室への段差はなく、玄関も最小限の段差にとどめている。	・平日、玩具遊び、工作、体操、野球、本読み、宿題、トランプ、ゲーム等をしてはいますが、すべて、物・場所が足りない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・毎日の掃除(トイレ掃除、アルコール消毒)が必要。役割を決めて行う必要がある。・「衛生管理委員会」メンバーが主導。	・長年勤務しているスタッフは、気づきがない。マンネリ化等対策が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	4	・状況に応じて2階部分を宿題等、支援スペースに活用し、ご利用者に応じて、対応している。	・強度行動障害児は、適切と思えない玄関の土間であることが多い。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	2	・毎週1回、ミーティングで利用者様の振り返り、様子などを情報共有している。	・週1回行われるミーティングにて振り返りなどを実施しているが、個別目標の踏み込んだ指示も必要かなと思う。・計画・実行・評価・改善のサイクルに乗って支援していると思えるときと、そう思えないときがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3	・保護者の意見などもミーティングを含め、把握、共有する機会を設けている。	・保護者からは、良い反応を受けているが、すべての保護者が返答して下さるわけではない。・業務改善に向けての具体的な目標設定が必要と思う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2	・ミーティングや支援後の話し合いを行っている。・ミーティングにて反映させている。	・1、2年前よりは、意見を聴いていると思いますが、改善にされていないことが多い。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		・費用などを鑑みて検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・月1回のスタッフ合同研修で行っている。・外部研修は、支援業務に関わるものを選択し、当該の資格取得を進めている。内部研修も月1回のテーマを決め、取り組んでいる。	研修に参加して学ぶ必要性のある新人スタッフの出率が低い。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	4		・公表されているのは、多くありますが、個々の利用者には合わない内容がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	3	・フィールドの活動において、体幹の強化、自発性など、個々の特性を考慮して、どすこいの特色を生かした支援計画を作成している。	・ニーズや課題を正しく分析して作成しているとは言えない場合もあるが、大まかな目的は、保護者に理解してもらっている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	3	・上記と同じ。・共通理解はあり、互いに目標に向けて子どもの最善を考慮して努力している。	・担当職員の意見、検討、発表などを充実させ、より踏み込んだニーズの把握は必要であると思う。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	3	・職員間でのチームワークを大切に、報告→連絡→相談を心掛けている。	・あまり知らずに支援している部分がある。・計画に関しては、職員が自由に閲覧できる環境ではあるが、更に踏み込んだ情報の共有ができるよう、調整が必要と思う。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	・ミーティングで情報の共有を図っている。 ・子どもの状態、特徴を把握し、支援方法を医療機関、学校、市、事業所のアセスメント情報を集め、多角的に捉え、本人・家族のニーズに合わせている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	・地域連携できるようなプログラムはご案内している。 ・大きなテーマ、農業(田植え・稲刈り・脱穀・餅つき・夏のカヌー)から、紙芝居、鉄道教室、リトミック、英語教室、韓国語教室、沖縄教室、サイエンス教室、地域交流(建国高校の伝統芸能)などがある。	・自分も含めて、スタッフがガイドラインの内容を具体的に落とし込めていないこともあるので、勉強会などを通じて、理解を深めていきたい。 ・支援内容が提示されていない場合がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	2	・ミーティングなどで、スタッフの意見をくみながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	3	・スタッフの資格や特技などを活用し、プログラムを実施している。 ・毎回レベルアップし、楽しんでいる。	固定化しないよう、またマンネリ化避けるため、4半期ベース、半期ベースなど期間を区切って重点項目を勘案するなど、工夫に努めたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	2	・無理のない範囲で、個別に内容を出しながら、参加不参加も強制なく対応している。	・支援対象の子どもの特性を考慮し、適切に組み合わせた計画は作成されているが、意識して都度の状況をフィードバックするなど、スタッフ間での共有は努めなければならない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	4	・事前準備、シュミレーションしながら協力している。	・毎日ではできていない。 ・支援前の打ち合わせの充実が必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	水曜日のミーティング時、打ち合わせ、振り返りを行っている。	・毎日ではできていない。 ・ハイに〇をしたが、必ずしも定例化されているとは言えない。計画性を持って適時行う必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	2	・業務日誌にご利用者全員の当日の状況を記し、スタッフで共有している。 ・気になるところは、メモをとり、意見を出し、記録係がまとめている。	・日誌をしているが検証改善は不十分。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	4	・児発管が中心となって、行っている。 定期的なモニタリングはしていると思いますが、計画の見直しなどの判断は、管理者にお願いしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	5	・チームとしては、複数組み合わせ支援ができていると思う。	全スタッフの共通認識がまだまだ不十分。
関係機関	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		・おやつ作りや工作の際でもご本人の自発性を尊重し、自らの判断、決定するよう支援を行っている。 ・カードゲームを取り組む中で、行われている。 ・各年代、発達段階に応じて、きめ細かな支援を心掛け、自発的に取り組んでもらっている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	・基本的に、児発管やリーダー格のスタッフが参加している。	・管理者やリーダーが行くが常勤のスタッフも行くべきだと感じる。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	3	・児発管などが、行政、協議会など、関係の社会資源などと連携に努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	2	・チームのリーダーが中心となり、学校の行事を含め情報共有、連絡調整などに努めている。 ・必要があれば、伝えるようにしている。 ・日頃、情報共有しながら、適時、迅速に対応し、事故防止に努めています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	5	・該当者がいない。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	5	・前例がない。(在校中の支援に資する情報提供はあり。) ・これまでの記録の中から、必要な情報は、適切な判断の下、提供します。	

や保護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	7	・地域の連絡会に参加し、情報の収集に努めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	6	・公園に行った際、地元の子どもたちと一緒に鬼ごっこなどをして、機会があれば接点を持てる様になっている。自治会とはよい関係性にあり、同会を通して、地域の子どもたちと間接的に交流がある。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	4	・月毎の案内に積極的に対応し、参加を心掛けている。・分からない。・これから機会があれば、参加したいです。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・スタッフが送迎時に、ご家族に対して当日の様子を伝え、保護者から家や学校での情報を集めている。写真、動画で行っている。・送迎時に話す。・連絡帳の記録で、必要な情報を交換し、対応しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	4	・ご家族との交流を増やすため、課外活動において、ご家族向けのオープンフィールドを開催している。	・さまざまな事情に係る保護者の不安に対しては、機会があれば意見交換したい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	・入会時に児発管が説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	・保護者との面談機会、相談支援事業所からの情報把握、確認に努めている。・保護者、子どもの意思・利益を考慮して確認しながらサービス提供している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	1	・当該計画は、必ず保護者に内容の確認と同意をいただいてから実施している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・担当者が状況に応じ、ご家族、学校などの社会資源と連携をとりながら、対応している。・主に施設長。・適切な対応を心掛け、日頃から関係性づくりにつとめている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	5	・オープンフィールドの開催時などに保護者様同士の交流がある。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	1	・苦情担当窓口を設けている。苦情があった場合は、迅速な対応を心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		・HPやSNSを積極的に活用している。特にSNSは、毎日更新し、情報の発信に努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・当事者間で、書面を取り交わし、個人情報の漏洩に留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・絵画、筆談などの対応、また一部のスタッフは、手話が可能。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	・イベントの開催時は、地域の方を招待している。・いつでも地域住民に開かれた事業所であるよう、適時、イベントの案内もしている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		・各項目に対応する委員会を設けており、適時、活動を行っている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	2	・感染症及び災害時の業務継続計画を策定し、必要な訓練を行っている。(普通救命訓練講習に毎年参加)	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	1	・スタッフ間で情報を共有している。今後も継続的な意識づけに努めたい。・保護者の記録を全体ラインで把握している。・服薬・てんかんなどのこどもの状況を確認している。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・スタッフ間で情報を共有している。今後も継続的な意識づけに努めたい。・保護者の情報を得ている。・医師の指示書に基づいて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	2	・安全計画を策定しており、今後も継続的な意識づけに努めたい。・安全管理の研修や当該訓練を受け、必要な措置、支援をしている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	4		・口頭ベースでの説明のみになっている。ご家族に対して、より具体的な説明が必要。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・ヒヤリハット事例は、逐次情報を共有している。さまざまな当該事例の再発防止を目的に対応を心掛けている。	報告・連絡・相談の更なる徹底が必要。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・虐待防止委員会を設置して内外研修を積極的にを行っている。	・研修受講 ・虐待防止のDVD研修を受けているが、さまざまな状況のマニュアルの充実化が必要。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	3	・生命に関わるような深刻な状況にならない限り、原則、身体拘束は行わない旨、子どもや保護者に説明を行っている。	